

# インフルエンザ予防接種 新型コロナウイルスワクチン接種

同時接種  
も可能



令和6年度のインフルエンザ予防接種と新型コロナウイルスワクチン接種がはじまります。インフルエンザ予防接種・新型コロナウイルスワクチン接種ともに、重症化を予防する効果が認められていますので、接種を希望する方は、この機会に接種をご検討ください。

## インフルエンザ

接種期間 令和6年10月1日(火)～令和7年1月31日(金)

対象者		自己負担額
①65歳以上の方 (※ 65歳の誕生日の前日から接種が可能です。)		1,500円 ※生活保護受給者の方は無料
②60歳から65歳未満の方で心臓、腎臓又は呼吸器の機能に一定以上の障害(障害者手帳1級を有する方)		
③1歳以上12歳以下の方(2回接種)	指定医療機関★ で接種してください	1回目 1,500円 2回目 1,000円 ※2回目を1回目と異なる病院で接種した時は1回目の金額になります。
④中学生(1回接種) ※接種日に13歳未満の場合は2回接種		

★指定医療機関 ・河合内科医院・近藤クリニック・亀乃甲診療所・関医院・柵原病院・福渡病院

## 新型コロナウイルス

接種期間 令和6年10月1日(火)～令和7年2月28日(金)

対象者		自己負担額
① 65歳以上の方 (※ 65歳の誕生日の前日から接種が可能です。)		2,500円 ※生活保護受給者の方は無料
②60歳から65歳未満の方で心臓、腎臓又は呼吸器の機能に一定以上の障害(障害者手帳1級を有する方)		

医療機関に持参するもの

- ① 母子健康手帳 または 健康手帳(接種記録を残すため)
- ② 健康保険証、マイナンバーカード等
- ③ 予防接種予診票(病院 または 保健福祉課にあります)

説明書を読んでから接種しましょう！



## インフルエンザ予防接種 説明書

### ■インフルエンザについて

インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することによって起こる病気です。38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛など全身の症状が突然現れます。併せて普通の風邪と同じように、のどの痛み、鼻汁、咳などの症状も見られます。お子様ではまれに急性脳症を、ご高齢の方や免疫力の低下している方では肺炎を伴う等、重症になることがあります。感染後に発病する可能性を低減させる効果と、インフルエンザにかかった場合の重症化防止に有効とされています。

### ■接種不適当者(予防接種を受けることが適当でない者)

被接種者が次のいずれかに該当すると認められる場合には、接種を行ってはならない。

- 1)接種当日、明らかな発熱を呈している者 ～ 明らかな発熱とは、通常 37.5℃以上を指す。
- 2)重篤な急性疾患にかかっている者。
- 3)予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシーショックを呈したことがある者。
- 4)当該ワクチンの接種後2日以内に発熱のみられた者及び全身性発疹等の症状を呈したことがある者。
- 5)その他、予防接種を行うことが不適当な状態にある者 ～ 接種医により判断されることとなる。

### ■一般的注意

- 1)インフルエンザワクチン接種後 24 時間は副反応(健康状態の変化)の出現に注意し、観察しておく必要がある。特に、接種直後の 30 分以内は健康状態の変化に注意すること。
- 2)予防接種当日の入浴は差し支えない。接種後 1 時間を経過すれば、入浴は差し支えないと考えられる。
- 3)過激な運動、大量の飲酒は、それ自体で体調の変化をきたす恐れがあるので、ワクチン接種後 24 時間は避けるべきである。
- 4)インフルエンザの流行は1月上旬から 3 月上旬が中心であること、接種後抗体の上昇までに2週間程度を要することから、より効率的に有効性を高めるためには、12 月中旬までにワクチン接種を済ませることが望ましい。

### ■重大な副反応

まれに、ショック、アナフィラキシー様症状(じんましん、呼吸困難、血管浮腫等)があらわれることがあり、そのほとんどは接種後30分以内に生じる。

### ■その他の副反応

- 過敏症：まれに接種直後から数日中に、発疹、じんましん、紅斑、掻痒等そうようがあらわれることがある。
- 全身症状：発熱、悪寒、頭痛、倦怠感等を認めることがあるが、通常、2～3 日中に消失する。
- 局所症状：発赤、腫脹、疼痛等を認めることがあるが、通常、2～3 日中に消失する。

# 新型コロナウイルス感染症予防接種 説明書

## ■新型コロナウイルス感染症について

新型コロナウイルス感染症は、SARS-CoV-2 に感染することによって起こります。発症すると、熱や咳など風邪によく似た症状がみられます。軽症のまま治癒する人も多い一方、重症化すると、呼吸困難などの肺炎の症状が悪化し、死に至る場合もあります。

## ■新型コロナワクチンの有効性

新型コロナワクチンについては、国(厚生労働省)において有効性及び安全性が確認された上で薬事承認されており、さらに、国内外で実施された研究などにより、新型コロナウイルス感染症にかかった場合の入院や死亡等の重症化予防効果が認められたと報告されています。ただし、予防接種を受けても、発症等を完全に予防できるわけではありません。

## ■予防接種を受けることができない人

- ①明らかに発熱のある人(一般的に、体温が37.5℃以上の場合)
- ②重篤な急性疾患にかかっている人 急性の病気で薬を飲む必要のあるような人は、病気の変化が分からなくなる可能性があるため、その日は見合わせるのが原則です。
- ③新型コロナワクチンに含まれる成分に対し、重度の過敏症(※)の既往歴がある人 ※アナフィラキシー(急性のアレルギー反応)や、全身性の皮膚・粘液症状、喘鳴、呼吸困難、頻脈、血圧低下等、アナフィラキシーを疑わせる複数の症状。これまでの接種でこれらの症状が認められた人は、同一の成分を含むワクチンを用いた予防接種を受けることができません。
- ④ その他、予防接種を行うことが不適当な状態にある人で上記①～③に該当しなくても医師が接種不適当と判断したときは接種できません。

## ■新型コロナワクチンの安全性と副反応

日本で使用されている新型コロナワクチンは、安全性を確認したうえで承認され、接種されており、その有効性も認められています。接種後に注射した部分の痛み、疲労、頭痛、筋肉や関節の痛み、寒気、下痢、発熱等がみられることがありますが、こうした症状の大部分は、接種後数日以内に回復しています。また、まれな頻度でアナフィラキシーの発生や心筋炎・心膜炎を疑う事例が報告されています。これまでの接種で副反応が強く出た方などは、接種について慎重にご判断ください。

## ■副反応が起こった場合

予防接種の後まれに副反応が起こることがあります。また、予防接種と同時に、ほかの病気がたまたま重なって現れることがあります。なお、予防接種を受けた後、接種した部位が痛みや熱をもってひどく腫れたり、全身のじんましん、繰り返す嘔吐、顔色の悪さ、低血圧、高熱などが現れたら、医療機関を受診してください。

## ■予防接種健康被害救済制度があります

予防接種では健康被害(病気になったり障害が残ったりすること)が起こることがあります。極めてまれではあるものの、なくすことはできないことから救済制度が設けられています。申請に必要な手続きなどについては、保健福祉課へご相談ください。

久米南町役場 保健福祉課 ☎086-728-2047

厚生労働省新型コロナワクチンコールセンター ☎0120-700-624 (毎日 9:00~21:00)